

IAUD Newsletter vol.6 第6号（2013年6月下旬号）目次

1. 一般財団法人移行のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 一般財団法人に移行して～岡本新理事長に聞く・・・・・・・・・・・・2
3. 韓国 済州障害者人権フォーラム IAUD 訪問・・・・・・・・・・・・・・6
4. IAUD 7月の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

社会への更なる貢献を目指し、誇りある財団法人に 一般財団法人移行のご挨拶



皆様におかれましては、平素より当協議会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

国際ユニヴァーサルデザイン協議会は2003年11月に任意団体として設立して以来、法人化を視野に活動・協議を進めて参りましたが、この度、故寛仁親王殿下のご命日である2013年6月6日に一般財団法人の設立登記を行い、「一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会」を設立いたしました。

また早速、公益認定を受けるための申請を行ない、公益財団法人への移行手続きも進めて参ります。

今後も IAUD は法人化によるメリットを最大限享受し、団体としての運営基盤を磐石化するとともに、従来にも増して UD 普及のための事業を推進し、持続可能な共生社会の実現に更なる貢献を目指します。

財団法人化は IAUD に新たな社会的信用と責任を付与することになりますが、同時に会員の増大と活動の活性化に大きな契機を与えるものと確信しております。

移行に際して、多大なご協力を賜りました会員の皆様に謹んでお礼を申し上げますとともに、今後も会員の皆様と共に、IAUD を誇りある財団法人として育て上げていくために、引き続き格別のご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2013年6月
一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会 理事長
岡本一雄

※HPに掲載中の「公益財団法人化に向けて」は[こちら](#)をご覧ください。

※「一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会 定款」は[こちら](#)をご覧ください。

一般財団法人に移行して

特集：岡本一雄新理事長に聞く

故寛仁親王殿下のご命日である 2013 年 6 月 6 日に一般財団法人の設立登記を行い、この度「一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会」が設立されました。今号の Newsletter は、法人化に伴う今後の IAUD について、岡本一雄新理事長に川原啓嗣専務理事、西村澄夫情報交流センター所長、川原久美子事務局長がお話を伺いました。

設立 10 年を迎えて

川原事務局長：故寛仁親王殿下のご命日である 6 月 6 日に法務局に登記を済ませ、14 日に公示されました。定款を見ていただいた公証役場の方に、「これまでいろいろな団体の定款を見てきたが、これほど真面目に世の中のために取り組んでいる団体は見たことがない。企業が取り組んでおられる気持ちもよくわかった。このような(団体の)手続きに自分が関わって良かった」とおっしゃっていただきました。

また、登記申請の際には法務局の方にも「非常にいい事業をされている。ぜひ事業内容を世の中に知らしめてほしい」とのお言葉をいただきました。



岡本理事長：これまでの手続きご苦労様でした。IAUD が設立してから 10 年になりますが、10 年の歴史というのはすごいですね。

川原事務局長：公証役場の方にも「このようなまっとうな活動を 10 年も続けられるとは。日本の企業もこのような社会貢献をしているのですね」と感心しておられました。

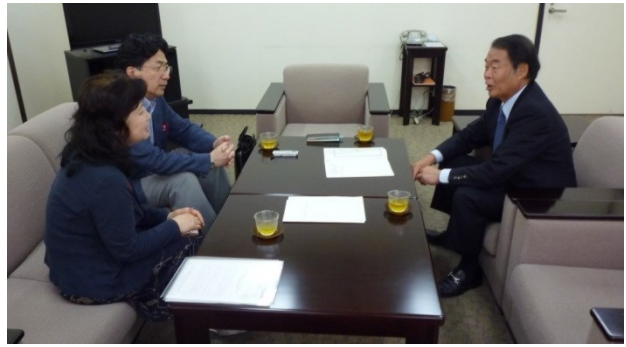
西村所長：この 10 年、いろいろありました。ぜひ、この 10 年の歩みをやりたいですね。実は、昨年度に旧理事・主査の方から、10 年の振り返りコメントをいただいております。

岡本理事長：殿下もお亡くなりになられ、今回の財団になったことも含めて、ここで 1 回、これまでを振り返るのにはいい時期だと思います。

殿下から教えていただいたこと

川原専務理事：IAUD が任意団体として発足した際の規約作りのときに、殿下が会長をなさっておられた柏朋会の監事の方からかなり厳しいご助言がありました。規約は最初から財団の形式にのっとって作ったのですが、細かいことまで記載することがあり、大変苦労しました。

川原事務局長：今回、法人化のために新たに定款を作ったのですが、殿下から規約作りのときに「こんな風に作ったら」とおっしゃっていたのと、ほぼ同じでした。最初から殿下は将来、公益財団法人になることを考えておられたのだ、と改めて思いました。



岡本理事長：殿下はいろいろなことをなさった方だから。「自分たちで苦労しながらそこまできなさいよ」とご覧になっていたのかもしれませんが。初めから殿下がそれをやってしまうと、自分たちではやらなくなってしまいうから、そうやって育てようと思われたのでしょうか。

川原事務局長：殿下は「自分たちで汗をかかないと」と、常におっしゃっていました。

設立意義や目的を曲げないために

川原事務局長：法人化に関して、財団か社団かどちらの形態が相応しいのか、これまでの理事会で検討してきましたが、結局は財団を目指すことになりました。財団は設立目的を変えないことを前提としているからです。活動の目的を決議によって変えてもいいのが社団ですが、財団は設立意義や目的がはっきりしています。

岡本理事長：IAUD は目的を変えるわけにはいかないからね。

川原事務局長：6月25日に一般財団として最初の理事会を開催し、今後は新総裁、副総裁をお迎えして発足記念式も行ないたいと考えています。そして、徐々にこれまでの振り返りのことも考えていきたいですね。

岡本理事長：ぜひ、まとめたほうがいいと思います。殿下、山本会長を思い出しながらね。

西村所長：情報交流センターでも IAUD の歩みを公式ウェブサイトや Newsletter に掲載していきたいと思います。

岡本理事長：日本は意外と歴史を残さないものなのです。年史を作ることになったら、慌てて情報を集めたりして。今回はこの10年を締めきちんと1回、大きく振り返ったほうがいい。

IAUD が更に期待される時代

川原専務理事：設立から10年を経てようやく IAUD は財団法人になりましたが、新理事長としてこれからの抱負をお聞かせいただければ有難く存じます。

岡本理事長：10年経ったわけですから、色々なことを変えていかなければならないでしょう。UD の普及という理念は変わらないけれど、何か新しいことも始めないといけま

せん。そして新しいことを始めるなら、今までのものをある程度、振り返らなければいけないと思います。

川原専務理事：東日本大震災の後、UD の概念も変わりました。「第 4 回国際 UD 会議 2012 in 福岡」でも「安全・安心～UD の基本を考える～」をテーマにしましたが、改めて安心・安全について、皆で考えることができた節目だったと思います。また、それを反映させた商品も世の中に実際に出てきました。現実が変わってきたな、という印象があります。



岡本理事長：一昔前とはだいぶ変わってきているけれど、IAUD の活動にはいい方向になっているし、もっと IAUD が期待される時代になっています。

川原専務理事：未曾有の震災経験をいい方向に活かしていきたいですね。世界の国々からも「これだけの災難を経た日本は、必ず何か新しいことを作っていくだろう」という期待が大きいので、それに応えていきたいと思っています。

岡本理事長：IAUD は国際会議を持っている。世界に発信できる機会があるのは、強みです。

川原専務理事：思想や概念のような精神的なものだけでなく、具体的な UD 商品をどんどん輸出するなどして、実利的な部分も確保していかなければなりません。

川原事務局長：拡大交渉中の TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の文言にも、UD を入れていくことをお願いしています。言葉だけではブームになるとしぼんでしまうので、じっくりと大切に育てて、地に足がついたやり方を考えていきたい、と（担当官からは）言われています。なかなかメディアに取り上げられないと会員の方に言われますが、何かあったときにきちんと取り上げられるよう、実績を静かに広げていきたいです。

岡本理事長：実績がないといつかしぼんでしまう。しっかりと残していくといい。

川原事務局長：「第 4 回国際 UD 会議 2012 in 福岡」では全省にご協力いただきましたが、省庁関係者に国際会議の報告書をお持ちすると、「よくすべての省から承諾が取れましたね」とお褒めの言葉をいただきます。

高い知識を持つ研究部会メンバー

岡本理事長：「2012 年度 IAUD 成果報告会」では 24 時間デザインマラソンの報告を聞きましたが、非常に地に足がついている活動だと感心しました。参加メンバーは活動をよくやっていますね。

川原事務局長：先日の「第 3 回定例セミナーCM 字幕勉強会」でも、研究部会がしっか

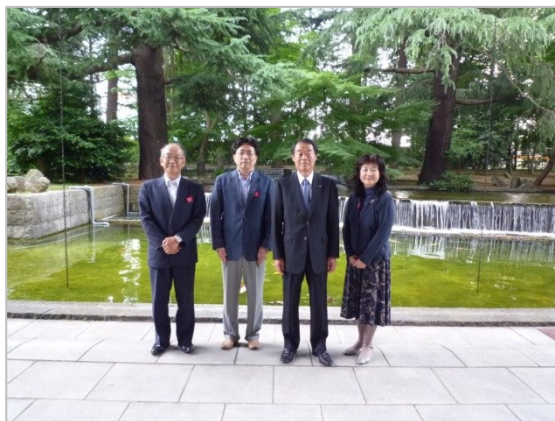
り活動していることを、皆様に理解していただきました。この10年間、IAUDの研究部会で活動してきたメンバーは非常に勉強されていますし、それだけの知識をお持ちです。UDを教えている先生と同じレベルに到達しているのではないかと漏らしている大学教授もいるくらいですから。

岡本理事長：研究部会のメンバーは、概念だけでなく実務をやりながら勉強しているから強い。それだけの力はあると思います。

西村所長：これからは、会員の個々のパワーをプロデュースして、いかにして成果に繋げていくかが課題ですね。

川原事務局長：10年前に会員企業の方は、研究部会活動に関わるだけでも（知財権の帰属などの問題で）難しかったのですが、今では皆で作りに上げるのが当たり前になっています。

西村所長：この10年で参加メンバーも加減がわかってきたのでしょうか。今ではきちんと活動に結びつけています。



日野自動車(株)本社前で記念撮影

川原事務局長：10年間続けてきたことによって、部会活動が参加メンバーにとって会社のためにも、自分のためにも、そしてIAUDのためにもなる、いい循環になっています。続けることは本当に大切ですね。昨秋から始まったばかりの「UD検定・初級講習会&検定試験」も、受験者から「長年UDに関わってきたが、自分のこれまでの知識を認識できるいい機会だった」との声がありました。改めて、検定を実施することには意義があり、これから中級、上級と続けていくことが世の中を変えていくのだと感じています。

川原専務理事：UD検定はスタンダードとして認められつつあります。継続して定着しなければいけないですね。（了）

協力してより充実した UD 社会に 韓国 済州障害者人権フォーラムが IAUD 訪問

韓国済州島から UD 視察のため来日した「済州障害者人権フォーラム」のメンバーら 16 人が、6 月 4 日（火）に IAUD サロン（東京・八丁堀）を訪問しました。

済州障害者人権フォーラムは、UD に対する意識拡大のために努力する障害者団体で、2003 年に設立されました。済州地域社会で障害者に関する政策の研究や提言、モニタリングなどを通じて障害者の権益を擁護し、自立生活の実現を目指しています。今回の訪問者の中には、「第 4 回国際 UD 会議 2012 in 福岡」に参加した方もいました。

IAUD からは川原啓嗣専務理事と川原久美子事務局長が対応しました。



対談中にはテレビカメラでの収録も



活発な意見交換が行われた

まず、IAUD 設立経緯の質問があり、専務理事と事務局長が回答しました。日本の UD 普及については、「日本人にはもともと『思いやり』や『おもてなし』など、他人に対する配慮や優しさが備わっている。企業デザイナーたちは UD を知る前から、これらに基づいた UD 製品や環境づくりを積極的に行っており、UD の概念を知ったとき、今まで培われていた思いや行動とうまく融合できた。また、行政にも当てはまる概念であったため、必要性や熱意を素直に理解していただき、日本社会に徐々に普及することができている」と述べました。

さらに、IAUD の成果物として「やけど注意ピクトグラム」「UD ジャケット」「UD マトリックス ユーザー情報集・事例集」を紹介しました。

参加者は UD を社会に浸透していくためには何が必要かということについて大変興味があるようでした。また、韓国で UD を推進するのは主に障害者団体であるため、日本人のもつ高齢者や子供、障害者を含むすべての人に配慮する行為や考え方について、新鮮に感じたようでした。

つづいて、現在の UD について意見交換が行われました。韓国の UD はまだ整備が足りない部分があるとお話があったほか、海外の UD についての実例も話題になりました。



参加者全員で記念撮影

さらに、「第4回国際UD会議2012 in 福岡」で調印したIAUDを含む世界5か国5団体による「グローバルコミットメント」について、済州障害者人権フォーラムに、韓国のソウル、水原（スウォン）、大田（テジョン）など他の団体とも連携して参加していただきたいと提案したところ、好意的なお返事をいただきました。



済州島の人形

最後に川原専務理事が「積極的に意見交換や協力をしていくことで、より充実したUD社会を作っていくことができる。これからもお互いに呼びかけ合って今回のような会の開催や連携をしていきましょう」と述べました。短い時間でしたが、有意義な会合を行うことができました。

韓国でUDを浸透させていくためには、社会がまとまっていけないといけないのだと認識しているようで、今回の会合にも障害者だけでなく政治家やメディア関係者、デザイナーなど多種多様の方々が参加されました。

お土産に韓国でも珍しい済州島の人形（右上写真）を頂きました。サロンに飾ってありますので、訪問の際にはぜひご覧ください。

韓国済州島からの訪問者：

Koh Hyeonsu	済州障害者人権フォーラム常任代表
Kim Jindeog	済州特別自治道議会議員
Ko Kyungran	済州特別自治道都市デザイン団公共デザイン
Lee Jungmin	前済州大学産業デザイン学講師
Song Inwoo	障害者自立生活センター幹事
Lee Yeonhee	障害者自立生活センター局長
Kang Hojin	済州住民自治連帯局長
Lee Seungtaeck	済州大学建築学教授
Yu Yonghan	済州障害者人権フォーラムチーム長
Kown Ohsang	済州障害者夜間学校部長
Song Changhun	済州障害者自立生活センターチーム長
Kim Jeahun	済州障害者自立生活センター主任
Kim Wonpil	済州障害者自立生活センター局長
Kang Kyounglim	通訳
Song Chulmin	JIBS テレビ局 PD
Lee Eving Bum	

IAUD 7月の予定



月	火	水	木	金	土	日
1 14:00～ 労働環境 PJ @CO-BA 渋谷	2	3	4 14:30～ メディア UDPJ @IAUD サロン	5	6	7
8 10:30～ WS 委員会 @神戸芸工大	9 15:30～ 移動空間 PJ @co-lab 渋谷ア トリエ	10	11	12 13:30～ 手話用語 SWG @IAUD サロン	13	14
15 海の日	16 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	17 13:30～ 移動空間 PJ @IAUD サロン	18 15:00～ 協同事業検討委 員会 @IAUD サロン	19 13:30～ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	20	21
22	23	24	25 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	26 11:00～ 標準化研究 WG@トヨタ博 物館 15:00 研究部会 @IAUD サロン	27	28
29	30	31				

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報をお寄せ下さい。

次号は 7 月中旬発行予定

特集：移動空間 PJ IAUD プロモーションムービー制作報告（予定）

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net